

無尽蔵プロジェクト

施策のポイント

これまでの協働の手法は、行政が企画し、民にも手を上げてもらい、補助金等を支払い実施していくという、いわゆる補助金行政が主であった。このプロジェクトは、これを逆転させ、企画も実践も民が行い、行政はその活動を補佐し、役割分担をしていくという新しい手法である。

自治体情報

神奈川県小田原市

人口 / 197,081人

標準財政規模 / 37,037,285千円

担当課 企画部企画政策課企画政策班

電話番号 直通 0465-33-1405

実施主体 小田原市

関連ホームページ <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/industry/mijinrou/muji>

事業期間 平成 21 年度から

参考とした施策

関係施策分類 ③ ④ ⑤ ⑥

施策の概要

1 取組に至る背景・目的

「安全な食」「交通の利便性」「質の高い文化」「恵まれた自然環境資源」など、日々の生活の中にある資源を磨きあげることで「強み」とし、新しい小田原スタイルを作り上げる。これを内外に情報発信することで、地域経済の活性化とまちの活力向上を目指すものである。

2 取り組みの具体的な内容

まず市が想定する 10 の推進テーマを設定。それぞれの分野で活躍している団体がテーマのコーディネーター（取りまとめ役）となり、民の団体・企業によるメンバー同士で議論し、目指すべき目標と、達成に向けた企画案のアイデア出しを行う。その後、役割分担を決め、自らが取り組みを実践する。

民間団体や企業が、行政の枠にとらわれない事業を展開し、行政は行政にしかできない事業を実施しながら、民の活動を側面支援することで、プロジェクトとしての相乗効果を狙う。

3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

- (1) 地域経済の活性化とまちの活力の向上
- (2) 小田原の魅力の発信による交流人口を増加させ、将来的に定住人口の獲得までも目指していく。

4 現在までの実績・成果

- (1) 無尽蔵プロジェクトのブログ「無尽蔵プロジェクト情報BOX」を立ち上げ、それぞれの推進テーマのブログとリンクを貼ることで情報を一元化した。
- (2) 各推進テーマの進捗状況や取組内容などの情報を共有し、意見交換を行う「連絡調整会議」を開催（12/21、3/8）したほか、キックオフイベント「無尽蔵プロジェクト EXPO 2010」を開催（3/27）した。

無尽蔵プロジェクトについて

- 1. 事業概要**
「新しい小田原」の実現に向けた3つの指針の一つである「希望と活力あふむ小田原」について、10の推進テーマを設定。それぞれ無尽蔵プロジェクトと位置づけ、実践の場で活躍している団体（企業等）を主に組織する「推進プロジェクト」において、事業展開を図っていく。
- 2. 目的**
市民と行政が一体となり、無尽蔵の英知を持って小田原の持つ特徴と潜在力を引き出し、「新たな「小田原スタイル」を醸成させることで、地域経済の活性化とまちの活力向上を目指す。
- 3. 取組内容、作業**
・各分野の実践の場で活躍している団体（企業等）が主となり、個別の「推進テーマ」を組織。
・各テーマでは、二宮博通市長の英知に習い、互いの考えをぶつけ合いつつ議論をし、目指すべき目標と達成に向けた企画案のアイデア出しを行う。
・その後、お互いが実践にできることは何かを整理し、役割分担を決定する。
・各団体（企業等）は、自らの役割において取り組みを実施する。
・「推進テーマ」には、市の関係する所管課が補佐役として参画し、調整役を担う。
・各テーマにおける連絡調整会議や取組内容の情報を共有し、意見交換する場として、「連絡調整会議」を設置。各テーマのコーディネーター、市長、アドバイザーらが出席し、意見を交わす。

民間団体（企業等）が、自らが蓄積するノウハウや自由な発想を活かした事業を展開する。
一方で、市は行政にしかできない事業を積極的に担い、側面から支援する。これが無尽蔵プロジェクトの真の目的であり、「持続可能な市民自治のまち」を作る基盤となるものとなる。

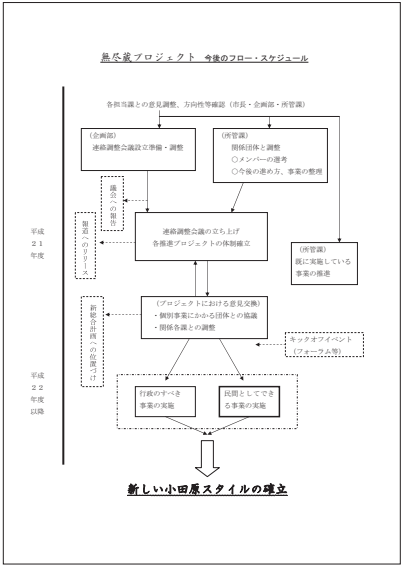
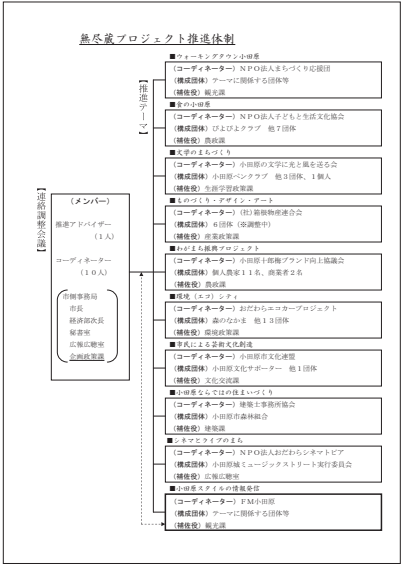
- 4. 10の推進テーマ**
(1) ワーキングタウン小田原 【観光振興】
(2) 食の小田原 【観光振興】
(3) 文字のまちづくり 【文化芸術振興】
(4) ものづくりを支援するプラットフォーム 【産業振興】
(5) おがまち振興プロジェクト 【観光振興】
(6) 環境（エコ）シティ 【環境振興】
(7) 市民による芸術文化創生 【文化芸術振興】
(8) 小田原ならではの体験づくり 【観光振興】
(9) シネマとライブのまち 【文化芸術振興】
(10) 小田原スタイルの情報発信 【観光振興】
- 5. 予算について**
このプロジェクトは、市民との協働の新しい形の事業であり、「働き活かす市政」でいう「無尽蔵」の実践である。
いわゆる、民間団体（企業等）を支援する「補助金行政」ではない。
民間団体（企業等）は、それぞれが自費を投入し、自ら課題解決に努め、役割を実行していただく。その結果として、民間団体（企業等）に利益がもたらされれば、それが小田原の経済の活性化につながる。
各プロジェクトの協議により方向性と協業が示され、市（行政）の役割を果たすべき範囲において新たな予算を要する場合は、その必要性和妥当性を勘案し、予算の計上を行う。
- 6. 小田原スタイルの目指すもの**
「強」「活」の「小田原」であった資源を振り出すことに加え、交通の利便性、食の安全性、何れも直す文化、農のある暮らし、など恵まれた小田原の資産（生活文化など）を「切り口」として、新たな魅力（セールスポイント）を作り出し、都心の人々に訴える。
小田原ブランドは歴史を尊重し、シブシブと作り出すものは決してない。フューチャー志向を掲げ、戦略的に発信することで、交流人口のみならず定住人口の獲得までつなげる取り組みがきつてくるはず。
行政のまろびくりに逆行し、民間企業や市民を中心とした「市民力」による自由な発想と実行を推進する。あらゆる英知を結集させ、小田原の新たな価値を見出し、小田原スタイルの目指すものである。

5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

いきなり「民で活動を」と言っても難しいため、まずは市が平成 22 年度に、民の活動の呼び水となる事業を実施し、民の活動を促していくこととした。

6 今後の展開と課題

「民」が主体となって、まちづくりを実践していくという、プロジェクトの仕組みのイメージが掴みにくいこと。また、民主体の取り組みであるため、効果判定が難しいことが課題として挙げられる。



予算関連データ

①～⑤の計		財源内訳（財源区分：①～⑤）				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
H22：13,326千円		0千円	0千円	0千円	0千円	13,326千円
①～④の名称、所管など	名称					
	所管					
	金額					
	補助率					